

腎臓内科・透析科・透析外来

部長 吉村 和修

はじめに

2017年8月に退職してから2020年4月に復職するまで腎臓内科は不在となっていましたが、この度再び高知に戻り近森病院で腎臓内科として働かせていただくことになりました。同時に前回と同様血液透析を担当する透析科としても、また以前は担当していなかった腹膜透析を担当する透析外来も担当することになりました。守備範囲は広がり腎臓領域全般をカバーできることになりまさに「ゆりかごから墓場まで」一貫して腎臓関連の治療に携われるようにより良い治療を目指していきたいと思っています。

腎臓内科・透析科・透析外来とは

腎臓は尿をつくる臓器であり、そのことを通じて体液量のコントロールや電解質や酸塩基平衡の調節を行っています。その障害により、からだのむくみ（浮腫）や心不全、高血圧に加え様々な症状を引き起こします。腎臓内科では、その慢性腎炎やネフローゼ症候群などの病態に対し、腎機能の悪化や蛋白尿の減らすよう治療します。また、慢性腎臓病（CKD）というすでに一定以上腎機能が悪くなった状態に対して血圧のコントロールや各種薬剤の投与によりその進行を遅らせ、また腎機能低下の結果おこる体液貯留や腎性貧血、骨代謝障害など合併症に対する治療も行います。そのような治療にも関わらず最終的に腎機能が高度に悪化した場合には、血液透析や腹膜透析といった腎代替療法の導入を行います。透析科は血液透析を主に担っている部門で、常時70—80名の患者さんが血液透析療法を行っています。そのうち20—30名が通常は他院で血液透析を行っている方で、何らかの急性期の病期のため近森病院に入院しています。その間の透析療法の維持を透析科として主科と一諸に行っています。近森病院では重症患者も多いため、そのような患者さんが多臓器不全になり急性腎障害を合併する場合の一時的な透析も行っています。また、神経疾患やその他難病とされる疾患に対して血漿交換などの特殊な血液浄化療法も透析科で行っています。透析外来では主に腹膜透析の患者さんを外来中心に治療しています。

腎臓内科外来

血尿、蛋白尿などの検尿異常などから腎生検の相談、ネフローゼ症候群や慢性腎炎の治療からCKDの治療、末期腎不全の療法選択などの相談など行っています。

透析科

入院・外来ふくめ常時80名程度の方が血液透析療法を行っています。

透析外来

主に腹膜透析療法の方の外来加療を行っています。

学生教育

高知大学医学部、群馬大学医学部、東京女子医科大学などの学生の実習を受け入れています。腎臓や血液透析などの理解を深めることで、プライマリーケアとして重要な輸液や電解質異常、体液管理の実際などを体験できるよう努力していきたいと思えます。

今後の展望

昨年を通じて CHDF の導入や腹膜透析外来の再編を行うことができました。来年度は ER や総合内科とのさらなる連携も予定されています。また来年度から 1 名腎臓内科に仲間を迎えることができました。さらに高知県の他の腎臓内科との連携も徐々にですが具体化しています。これらの計画を通じて今後は、より地域の病院・医院の先生方の当科へのニーズによりきめ細やかに対応できるようになると期待しています。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催

講演

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
慢性腎臓病の薬物治療	吉村和修	高知県病院薬剤師会学術講演会	9月30日 高知

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
栄養輸液に必要な基礎知識と手技 5 高カロリー輸液の実際と効果の判定	吉村和修	Medical Practice	Vol.37 臨時増刊号 Page.119-123